

14 あなたは、この民のために祈ってはならない。彼らのために叫んだり、祈りをささげたりしてはならない。彼らがわざわいであって、わたしを呼び求めても、わたしは聞かないからだ。

15 『わたしの愛する者は、わたしの家で 何をしているのか。いろいろと何を企んでいるのか。 聖なるいけにえの肉が、わざわいをあなたから過ぎ去らせるのか。 そのときには喜び躍るがよい。』

16 【主】はかつてあなたの名を、
「実りの良い、緑のオリーブの木」と呼ばれた。
だが、大きな騒ぎの音が起こると、
主がこれに火をつけ、その枝は台無しになる。

17 あなたを植えた万軍の【主】が、あなたにわざわいを告げる。イスラエルの家とユダの家が悪を行い、バアルに犠牲を供え、わたしの怒りを引き起こしたからである。』

【 ローマ人への手紙 】

11 : 17 枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分を受けているのなら

11 : 18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。

11 : 24 あなたが、本来野生であるオリーブから切り取られ、元の性質に反して、栽培されたオリーブに接ぎ木されたのであれば、本来栽培された枝であった彼らは、もっとたやすく自分の元のオリーブに接ぎ木されるはずです。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「 焼かれるオリーブの木 」

| エレミヤ書講解-27 エレミヤ書11:6-17 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 11章 】

- 6 すると、【主】は私に言われた。「これらのことばのすべてを、ユダの町々と、エルサレムの通りで叫べ。『この契約のことばを聞いて、これを行え。』
- 7 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出したとき、厳しく彼らを戒め、また今日まで、「わたしの声を聞け」と言って、しばしば戒めてきた。
- 8 しかし彼らは聞かず、耳を傾けず、それぞれ頑なで悪い心のままに歩んだ。そのため、わたしはこの契約のことばをことごとく彼らの上に臨ませた。わたしが行くように命じたのに、彼らが行わなかったからである。』
- 9 【主】は私に言われた。「ユダの人、エルサレムの住民の間に、謀反がある。
- 10 彼らはわたしのことばを聞くことを拒んだ自分たちのかつての先祖の咎に戻り、彼ら自身もほかの神々に従って、これに仕えた。イスラエルの家とユダの家は、わたしが彼らの父祖たちと結んだわたしの契約を破った。
- 11 それゆえ——主はこう言われる——見よ、わたしは彼らにわざわいを下す。彼らはそれから逃れることができない。彼らがわたしに叫んでも、わたしは聞かない。
- 12 ユダの町々とエルサレムの住民は、自分たちが犠牲を供えている神々のもとに行って叫ぶだろうが、これらは、彼らのわざわいの時に、決して彼らを救わない。
- 13 『まことに、ユダよ、あなたの神々は、あなたの町の数ほどもある。あなたがたは、恥ずべきものための祭壇、バアルのために犠牲を供える祭壇を、エルサレムの通りの数ほども設けた。』

(4ページへ続く)

◆はじめに・・・イスラエル：ラッパの祭り（新年祭）に入る

1.五旬節から長い収穫期を経て、迎えた律法の新年

- (1) 新しい時代に突入しようとしている現実に目を向ける機会。
- (2) イスラエルを通して、神の計画の進展を注視すべき時代。
- (3) コロナ禍を経て、教会が学ぶべきこと。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| さばかれるオリーブと神の恵み

*このメッセージは、イスラエルへの計画と教会携挙を交えて学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I 契約を破棄する民（6～13節）


*前回は1～5節まで、「契約のことばに立ち返れ」という神の応答で終わった。

それは、具体的には申命記を指す。申命記は、イスラエルの第2世代がカナンに入る際、既に与えられた律法を再び読み説くために与えられた、注解的な啓示である。

1.繰り返される罪

- (1) イスラエルは、なぜ同じ罪を何度も繰り返すのか
①世代が代わっても、その前の世代と同様の罪を犯している。

- (2) 「父の悪癖が子に影響を及ぼす」という神の指摘

- ①申5：9b あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神。わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、
- ②エゼ18：20 罪を犯した魂が死ぬのであり、子は父の咎について負い目がなく、父も子の咎について負い目がない。正しい人の義はその人の上にある、悪しき者の悪はその人の上にある。
- ③聖句の真意：子孫が先祖の罪を負うという意味ではない。各人は自らの罪を負う。
*父の生活習慣が、子の成長過程で大きな影響を及ぼす。
*聖句では、偶像礼拝の悪影響が子に及ぶことを指している。

2.二つの世代への糾弾

- (1) 過去の世代の不従順（6～8節）
①シナイ契約に違反した。②神が遣わした預言者の言葉に耳を傾けなかった。
- (2) 今の世代の罪（9～13節）
①彼らもまた、先祖たちと同様に偶像礼拝を犯した。
②偶像の神々を町の数ほど作り、祭壇をエルサレムの通りの数ほど作った。
*2：28c「あなたの神々はあなたの町の数ほどもいる」
→啓示が進み、時間が経っても、偶像礼拝が断たれることはなかった。

II 民のために祈ってはならない（14～17節）

1.エレミヤは民の執りなしの祈りを禁じられる。

- (1) 民は契約を破棄したから
①彼らは神に「わたしの愛する者」と呼ばれたのに、偶像礼拝に浸っていた。
②ヨシヤ王の宗教改革（前621頃・2列22～23章）も、彼らの内面を改めるには至らなかった。
③神殿で行われる宗教行事は、心のこもっていない、表面的なものでしかなかった。神は外側でなく、内面をご覧になる。
④不従順のみでなく、すすんで反抗することさえ喜んでいた。

2.さばかれるオリーブの木（16節）

- (1) かつてイスラエルの民は「美しいオリーブの木」と呼ばれた。
- (2) 木が落雷に打たれ、その枝が焼かれるように、神のさばきを受ける。
- (3) すべては彼らが悪を行い、契約を破棄したから。
①さばきは避けられないものであり、執りなしの祈りも禁じられた。
②さばきは徹底的であり、エルサレムはジャッカルに住みかとなる。
③多くの命が失われ、残った人々は偶像で満ちる捕囚の地に引かれていく。

3.オリーブの木はそのまま枯れてしまうのだろうか

- (1) 神は信仰に立ち返ることを待ち望んでいる。
- (2) パウロは別の文脈で、イスラエルというオリーブの枝が、再びいのちを得てよみがえると教えている。（ロマ11：17-24）
*枝が折られても、神の業は計画に基づいて進み、恵みは働き続ける。

◆まとめ：さばかれるオリーブと神の恵み

1.オリーブの接ぎ木のたとえ：異邦人信者よ、高ぶるな

- (1) 元あったオリーブの枝を折り、栽培種の幹に接ぎ木された野生種
①折られた枝とはイスラエルの不信者たち ②野生種の枝は異邦人を指す。
*ここでの折られた要因は、第一義はキリストを拒否したことである。
③異邦人信者がレムナントと共に、アブラハム契約の霊的祝福に与るようす。幹（アブラハム契約）の当事者（所有者）はイスラエルである。
- (2) 本来の接ぎ木とは全く逆であり、この出来事自体があり得ない「神の業」であることを表している。

2.神のいつくしみと厳しさのバランス：神は信仰者を救い、不信者を滅ぼす。

- (1) 神の義と愛、またそのことばを疑い侮る、全人類への警告。（ロマ11：22）

3.異邦人の完成の時＝「教会の携挙」（1テサ4：16-18）

- (1) 神の御怒り＝患難期（1テサ5：1-9）から信者を開放する。（1テサ1：10）
- (2) 世の終わりが近づいている。（ロマ13：11-12、ヤコブ5：7-9）